平成三十一年 春彼岸会 式次第

午前十時開式

一、殿鐘三会　七下鐘導師上殿…三宝御和讃を唱える　（九十四ページ）

◎本尊上供

一、摩訶般若波羅密多心経　（六ページ）

一、回　向

一、東光寺梅花観音菩薩御詠歌

♪吉田川　慈恵の流れ　せせらぎに　一華梅花に　心きらめく

◎開山、世代和尚諷経

一、妙法蓮華経観世音菩薩普門品偈　（五十四ページ）

一、回　向

一、彼岸御和讃

♪一、山川険しき世なれども　仏の教えひとすじに　彼岸にいたるしあわせよ
　　ああ　あめつちに陽はうらら　久遠の救いここにあり

♪二、あまねく施し戒めて　日に夜に励むもろびとに　彼岸の花の美しさ
　　ああ　爽やかにこの宴　妙なる調べ夢ならず

♪三、心を定めて腹立てず　祖先に祈りこめてこそ　彼岸を迎う親も子も
　　ああ　いまひらくこの悟り　嵐もしばし雪もやむ

◎先祖供養諷経

一、拈香法語

一、修證義　一、二章　（十二ページ）

一、妙法蓮華経如来寿量品偈　（六十五ページ）　※読経中焼香

一、報恩供養御和讃

♪一、歳月いつか重ね来て　遠くなりたる御親達
　　いかで忘れん御教訓の　きびしき声と笑顔をば

♪二、清きをかかぐ御灯明に　霊前は映える花の影
　　わがはらからよいとし児よ　面影かなし在りし日の

一、舎利礼文　（六十三ページ）

一、回　向（導師による塔婆供養読み上げ　※家名が呼ばれたら合掌低頭してください。）

一、導師退堂…正法御和讃を唱える　（九十六ページ）

◎住職の話

◎塔婆配布（思親殿廊下にて）

谷田山東光寺　平成三十一年春彼岸会　法話

生をあきらめ死をあきらむるとは

雨が少なかった冬でしたが春の訪れとともに雨がよく降り、境内の樹木も嬉しそうです。

今年の春は平成時代が終わり新たな年号の時代が始まる季節です。この節目に今一度、私たちはどのように生きるべきか仏教の教えをもとに考えてみましょう。

生をあきらめ死をあきらむるは仏家一大事の因縁なり

この一節は、皆さん御存知の修証義の冒頭の言葉です。

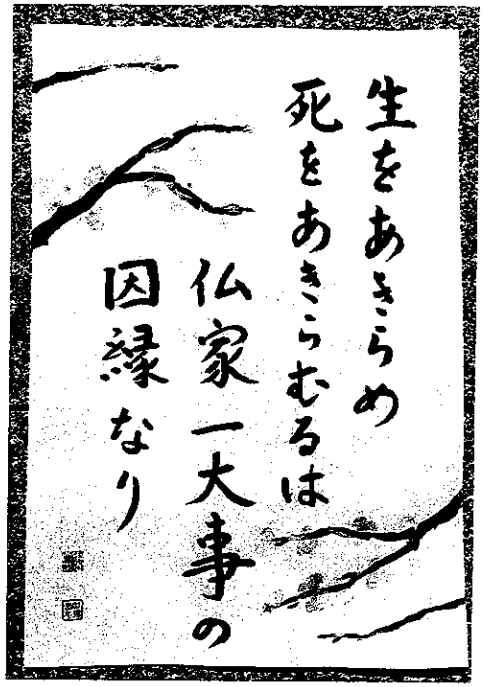
生きているとはどういうことか、死とはどういうことか、その真実を明らかにすることが仏教を信じる者にとって一番大切な問題ですよという意味です。

生きているとはどういうことでしょうか。人は自分の生まれたことは覚えていません。また、日常を生きていると本当はどういうわけで自分がここに生まれこうして生きているのか窮めつくすこともありません。

しかし、誰しも自分勝手に生まれてきたのではありません。親の注文通りに生まれてきたわけでもありません。親が思う以上に、完全に、不可思議に、生きるものとしてこの世に生を受けるのです。いわば、地球の生命が与えるがゆえに、地球が宇宙全体の生命とつながっているがゆえに、人間の思いを超えた存在として生命が与えられるのです。

死とはどういうことでしょうか。誰しも生きているものは死ぬ事を知っています。しかし、自分の死を体験した方はまったくいません。

どのように生きるか、どのように死を迎えるかは自分自身に任されています。この生きている間を自分の問題としてより良く生きるためにはどうしたらよいか教え導いてくれるのが仏道の教えです。

檀信徒の皆様と地域の皆様をいつも温かく見守ってくださっているのが東光寺のご本尊様、延命地蔵菩薩様です。菩薩様は仏様でありながら自分の修行より他を救うことを優先される慈悲深い仏様です。自分の修行も他を救済する行いも違いは無いという自他不二（じたふに）の生き方を象徴された仏様でもあります。

ご本尊様に手を合わせ、自分が自分がという損得にばかりこだわる生き方を反省し、仏教の教えを寄りどころにして新しい時代も力強く生きていきましょう。